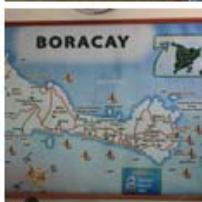




Welcome to ILOILO



目次

1. 総合案内・・・・・・・・・・ 2
2. 歴史・・・・・・・・・・ 7
3. みどころ・・・・・・・・・・ 9
4. 食事・・・・・・・・・・ 18
5. 観光・・・・・・・・・・ 24
6. アクセス・・・・・・・・・・ 27
7. ディレクトリ・・・・・・・・ 30

フィリピンの代表的な教育学園都市 イロイロ

イロイロはフィリピン中央部のヴィサヤ州西ヴィサヤ地方にあるパナイ島の中心都市（人口約42万人：2010年推計）です。周辺で最も古い歴史をもつ都市で、商工業の中心になっています。

フィリピンの大学ではトップクラスであるフィリピン大学や西ヴィサヤ州立大学、フィリピン中央大学（CPU）をはじめとする約40の大学・カレッジが集中する教育学園都市で、学生も多く、講師のレベルも高いので、英語の学習にはこの上ない環境です。

また、イロイロは祭り行事で名高く、ユニークな衣装に全身を黒く塗り、熱狂的なダンスが1日中繰り広げられるディナギャンフェスティバル（1月中旬）が代表的。

ハロ教会、モロ教会、そして世界遺産に登録されたバロック様式のミアガオ教会など、歴史ある教会も多くあり、日曜になると多くの市民が教会へお祈りを捧げに行きます。

空港から程近いサンタバーバラという町には、フィリピンで最も古く、ゴルフ通がハマる名コースといわれるゴルフ場「イロイロゴルフ&カントリークラブ」があります。

Noカジノ・Noスラム・Noストリートチルドレンのイロイロの街は、フィリピンでも随一の整備度合の高さを誇り、汚染が深刻な他の大都市に比べ緑地比率も高く、安全な都市です。

現地の中に溶け込み、いい意味で「市民と同化」することが出来る・・・そんな町です。



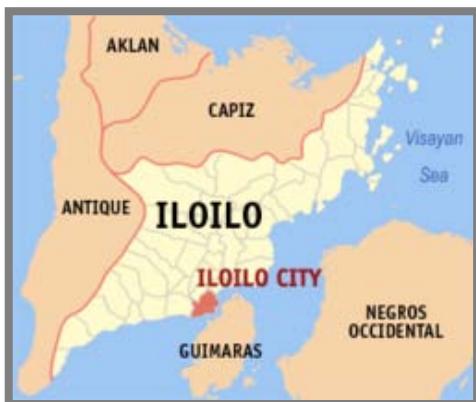


イロイロ州はパナイ島4州のうちの中心となる州です。

産業は米、サトウキビ、マンゴーなどの農業が基盤ですが、“フィリピンのアラスカ”と呼ばれるまでになった養殖漁業も経済の重要な担い手です。

また僅かながら繊維産業もあり、パイナップルの繊維から作るピニャやフシを産しています。

ピニャは結婚衣装の素材とし人々のあこがれで、軽く、通気性に富み、高級感のある美しさや風格は最高級品としてフィリピンの人々に愛されています。また、長い保存にも耐え、30年以上はそのままの状態を十分保つといわれます。



熱帯気候のフィリピンには1年に2つの季節があり、

- ・6月～10月の雨季
 - ・11月～5月の乾季
- に分けられます。

なお、3月～5月が乾季の中で最も暑い時期で、マンゴーが最も美味しく実る季節でもあります。

11月～1月下旬までは夜が非常に涼しく過ごしやすくなります。



Iloilo Provincial Capitol
(イロイロ市庁舎)



イロイロ市には180のバランガイ(自治体)があり、アレヴァロ (Arevalo)、シティ・プロパー (City Proper)、ハロ (Jaro)、ラパス (La Paz)、マンドゥリアオ (Mandurriao)、モロ (Molo) の6つの区にまとめられています。

シティ・プロパーがイロイロ市の政治的・経済的中心部で古くからの港町、ハロ・マンドゥリアオ・モロは商業地区で、アレヴァロとラパスは住宅地区です。

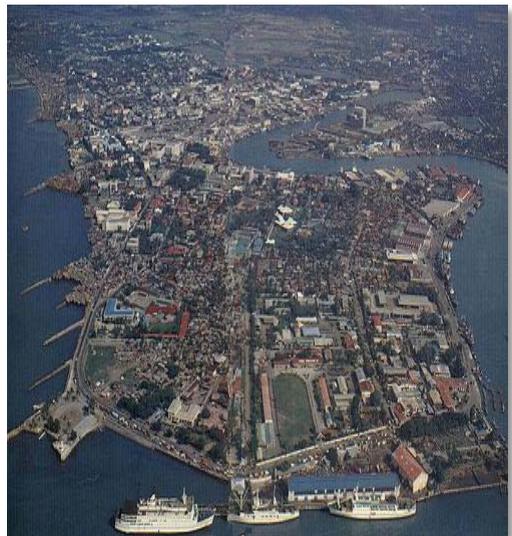
イロイロ最大のショッピングモールであるSM City ILOILOをはじめ、MK EDUCATIONもマンドゥリアオにあります。

市内での交通は、定番の「タクシー」、4人程乗れるサイドカー付きバイクの「トライシクル」、そして20人程収容可能な乗り合いバス「JEEPNEY(ジプニー)」が主な交通手段になります。ジプニーは“THE KING OF ROAD”と言われるほど、フィリピン人の生活に欠かせない公共の交通機関です。

※もっとも、フィリピンの道路事情に慣れるまでは、安心確実のタクシーによる移動が良いかもしれません。

イロイロ市は大都市らしく、約200社に及ぶ銀行と投資会社、保険会社、不動産会社などがあり、複数の大型ショッピングモールやプール、テニスコート、ゴルフ場など多くのスポーツ施設があります。VISA, Master, Diners, American Expressなどの主要なクレジットカードはほとんどのホテル、レストラン、ショッピングモールなどの商業施設で取り扱っています。

また、教育都市らしく市内周辺を回ってみると、多くの大学をはじめとする学校施設を見ることができ、制服を着た学生もよく見掛けます。



イロイロマップ



Christmas Scene in ILOILO



Central Philippine University



Iloilo Provincial Capitol

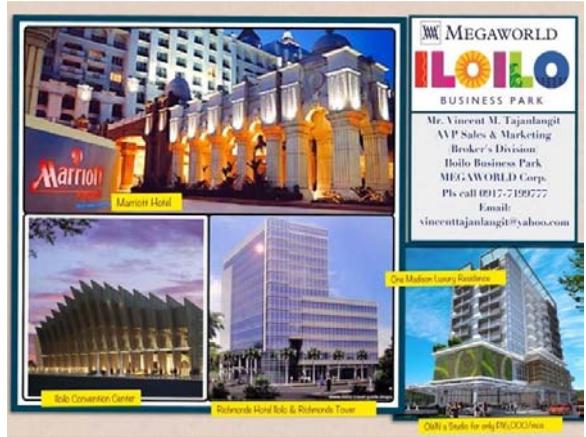


Guimbal Town (25km far from Iloilo)

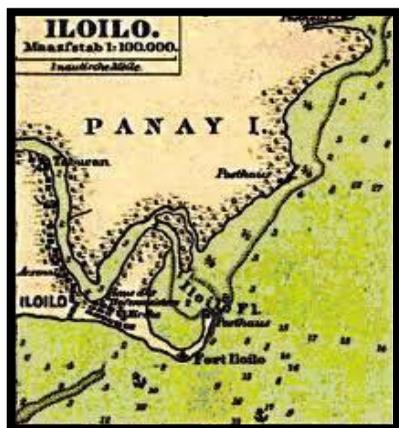
APEC 2015 開催都市として

2015年にフィリピンで開催されるアジア太平洋経済協力会議(APEC)がここイロイロ市で開催されることもあり、新たなコンベンションセンターやホテルをはじめ、大規模なビジネスパークの建設が急ピッチで進んでいます。

APECの開催を契機に都市の整備も進み、まさに名実共にヴィサヤ州の中心都市の一つとして更なる発展が見込まれています。



イロイロの歴史



イロイロの最初の歴史はペドロ・モンテラロの『マラグタス(Maragtas)』に記録されています。

マラグタスによれば、13世紀頃にボルネオでの圧政から逃れたマレー系の10人の領主(ダトゥ=datu)たちとその民が海を渡りパナイ島のサンホアキン(San Joaquin)という町にたどり着き、金の帽子やネックレスと引き換えに先住のアティ族の王マリクド(Marikudo)からパナイ島の低地と谷をもらい受けましたが、

ダトゥの一人パイブロン(Paiburong)はイロン=イロン(Irong-Irong、現在のイロイロ市)を受け取ったといえます。彼らの到着を祝う祭が、イロイロで最大の祭「ディナギャンフェスティバル(Dinagyang Festival)」の起源と言われています。

1566年、スペイン人ミゲル・ロペス・デ・レガスピがセブ島からフィリピン征服を始め、マニラに向かって北上していた頃、その部下達がパナイ島に来てオグトング(現在のOton)に入植しました。ゴンザロ・ロンキーロ(Ronquillo)が支配下の地元民を保護・布教活動しながら総督となり、ここから長い間スペインの支配が続きます。

1581年、ロンキーロはモロ人の海賊やイギリス・オランダの攻撃を受け、町の中心をオトンから12km西に移し、スペインの故郷の町から名をとり、ラ・ヴィラ・デ・アレヴァロ(La Villa de Arevalo)と改名。

1700年、オランダ軍とモロ人の攻撃はやまず、スペイン人植民者はさらに25km西にあるイロン=イロンの村に本拠を移しました。ここはパナイ島を蛇行する川(現在のイロイロ川)の河口で、地形的にも戦略的にも守りやすい土地でした。

彼らはサンペドロ要塞を築き、攻撃への備えとしました。イロン=イロンは「イロイロ」に短縮され、天然の良港はやがて地域の中心となりました。

18世紀末、大規模な織物産業が発展し「フィリピンの染織産業の首都」とも称されたイロイロの産品はマニラや外国にも輸出されました。

1855年にイロイロ港が世界市場に開かれ、砂糖産業により好景気を迎えます。その時代にインフラ・教育などが整備され、金融機関や商社などが設置されます。当時の富裕層たちの豪邸が今でも郊外に残っています。



この頃にはホセ・リサルなどを中心にスペインからの独立運動の機運が高まります。スペインとアメリカの戦争もあり、マニラが陥落するとイロイロに首都を遷しました。

1898年12月25日、スペインはリベルタド広場(Plaza Libertad)でフィリピン革命軍に対し降伏し、フィリピン第一共和国の国旗が掲げられました。

その後、アメリカや日本による支配があったものの、独立後1960年代から1990年代にかけて、イロイロ市の経済は徐々に復興を遂げました。港の建設、企業からの投資によって、イロイロ市は西ヴィサヤの中心としての地位を維持しています。

最後にイロイロの名前の由来ですが、市内を流れる川の形が「鼻」(タガログ語で「イロン=ilong」)の形に似ていることからついたのだそうです。

イロイロの名門大学

約40の大学・カレッジが集中するイロイロは、名実共にフィリピンを代表する教育学園都市です。

フィリピントップクラスの名門大学であるフィリピン大学(University of the Philippines)をはじめ、西ヴィサヤ州立大学(West Visayas State University)、プロテスタント系アメリカンバプティストによって設立されたフィリピン中央大学(Central Philippine University)、サンアグスティン大学(University of the San Agustin)などの名門総合大学5つをはじめ、30校を超える大学と2つの医学校があります。

フィリピン大学 ヴィサヤ校



フィリピン中央大学 (CPU)



西ヴィサヤ州立大学



サンアグスティン大学



イロイロの教会

フィリピンは東ティモールを除けば東南アジア唯一のキリスト教国で、国民の約90%以上がキリスト教徒です。そのためイロイロにもたくさんの教会が建てられており、週末には多くの方が祈りを捧げにやってきます。

多くがスペインの植民地時代に建てられた教会でルネサンス様式。1500年後半に作り始められ1800年後半にはほぼ全土に建てられました。構造や内部の備品は歴史的に貴重な物となっています。

モロ教会は教会内の聖人像がすべて女性で、この教会でお祈りすると恋人ができるとのこと。

ハロ教会はMKイロイロからも近く、教会2階にある聖人像は「ロウソクの聖母」と呼ばれていて毎年2月2日にはその聖人を讃えてお祭り「ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・カンデラリア」が行われます。

モロ教会



ハロ教会



ミアガオ教会



パヴィーア教会



サンタバーバラ教会



ランブナオ教会



ミアガオ教会

正式名はサント・トマス・デ・ビジャヌエバ教会（Santo Tomas de Villanueva）。
※フィリピンのバロック様式教会群として1993年にユネスコの世界文化遺産に登録。

スペイン統治時代の1787年に礼拝堂兼イスラム海賊対策用砦として建造を開始し1797年に完成しました。

建物正面は幼いキリストを連れたヨーロッパの聖人クリストファーとヤシやパイヤ、バナナ、グアバなど木々のレリーフが全面に施されています。植民地時代の宗教芸術には珍しいようで、ネイティブなタッチを発散する唯一の教会です。フィリピンではこの教会をアステカアートを連想させる“a unique explosion of botanical motif”で最もフィリピンらしい教会と評し、歴史記念物に指定されています。

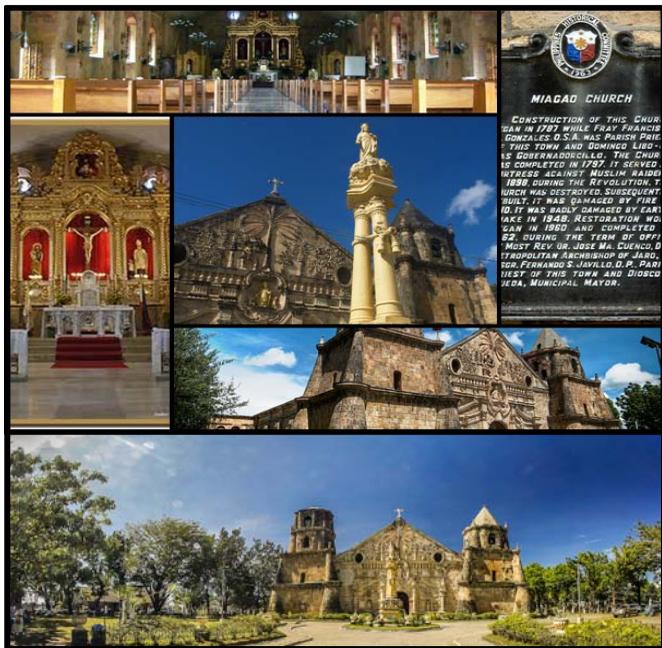
左右の鐘楼(塔)が非対称ですが、これには理由があって、建設開始当時指揮に当たったアウグスチン派のフランシスコ・ゴンザレス神父が途中で亡くなってしまい、後任者がオリジナル設計を変えてしまったためとのことです。

内部の壁の一部はサンゴ砂を卵の白身で練って塗られたとも言われています。

火事や地震で何度か被害を受けたこともあり、鐘楼の巨大な鐘はひび割れ、時の流れを感じさせます。

礼拝堂屋根中央に立つ十字架までは鐘楼から階段が通じているので歩けるとのこと。ただし手すりなどないので、海からの強風に十分注意が必要です。

※イロイロ市から約40km（車で約1時間弱）



イロイロの祭り

パラウレガッタ フェスティバル

(Paraw Regatta Festival)

毎年2月の第3週末にイロイロとギマラス島の間の海峡で行われるレガッタレースです。

カラフルなヨットは「Paraw」と呼ばれ、1212年ボルネオからの最初の入植者達で使用していたとされています。速さだけでなく、ヨットの帆のデザインも採点対象とされます。



ロウソクの聖母祭

(Feast of Our Lady Of Candles ~Jaro Fiesta~)



毎年2月2日にイロイロのハロ地区で開催されるキリスト教の祭典です。

「ロウソクの聖母」を祝う為に信者数千人がキャンドルを持ちハロ大聖堂に集まりお祈りしたり、この地区の家族は親戚や友人を家に招待して食事を振舞います。ハロ地区は西ビサヤ地方で宗教上の中心地と位置付けられており、祭も規模が大きく華やかです。

旧正月

(Chinese New Year Festival)

中国旧正月の行事で、イロイロ市内のイズナルト通り(Iznart Street)から、中国の民族衣装に身を包み龍と獅子舞と共に練り歩きます。午後には、ナイトマーケット、フードフェスティバル、花火などが行われます。



ディナギャン・フェスティバル

(Dinagyang Festival)

イロイロは祭り行事で名高く、ユニークな衣装に全身を黒く塗り、熱狂的なダンスが1日中繰り広げられる「ディナギャンフェスティバル」が代表的です。

幼児のころのキリスト“サント・ニーニョ”を祀る謝肉祭であり、毎年1月第4週の土日のイロイロ市内は、色彩と音と群集が織りなす



“Dinagyang”フィーバーで狂乱のるつぼと化します。

「ディナギャン」の源流は、イロイロと同じパナイ島北部の小さな町カリボ (Kalibo) での、アティアティハン (Ati-Atihan) という13世紀頃からの祭にあります。

13世紀半ば頃、ボルネオの部族ダトゥの10家族がボルネオを逃れ、小柄で黒い肌が特徴のアティ族の移住区であった北東のパナイ島へ辿り着きました。

アティはダトゥに居住区を与え、その来訪を祝いました。新参者たちはアティ族にならない顔を黒く塗った・・・これがアティアティハンの起源とのことです。



ところが後年、スペイン人が上陸し、回教徒軍との戦いで敵を欺く為に居住者たちをアティ族に見せかけるべく肌を黒く塗り、戦闘用の衣装をまとわされたことが功を奏してか回教徒軍に勝利を収めたとき、スペイン人はそれがサント・ニーニョの守護によるものだと説きました。これがアティアティハンに宗教的意味合いが加わった発端のようです。

イロイロのディナギャンも、かつては“*Ati-Atihan in ILOILO*”と呼ばれており、ディナギャンと改名されたのは1977年のことです。名付け親は地元の作家パシフィコ・スタリオです。



ダンスとドラムのメンバーで構成された平均100人前後の「トライブ」と呼ばれるチームは、前述の通り全身を黒く塗り、ド派手でユニークな衣装を身にまとい、市内数ヶ所の審査会場を巡りながら、ダンスとコスチュームで順位を競います。“*Viva Saer Saerito Ni*”という叫びが特徴的です。コンテストチームとは別に市民がそれぞれにグループを組織して、祭の1週間前から町中を練り歩きます。ディナギャンに使用される楽器はドラムだけになるので、100人単位のグループから発する音量はけたたましい轟音です。

この時期にイロイロに来た際には、ディナギャンの街中を埋め尽くす大群衆の熱気と響き渡るドラムの轟きを肌で感じて頂きたいものです。



複合商業施設

SM City Iloilo

1999年オープン。イロイロにある8つのショッピングモールの中で最大規模を誇ります。4フロアの面積は105,953㎡。衣食住・娯楽も含めここで全てが賄えます。スーパーマーケット、フードコート、ファストフード（マクドナルド、KFC、Jollibeeなど多数）、シネマコンプレックス、ゲームセンター、おもちゃ、本、家電製品、ドラッグストア、洋服、お土産、ポストオフィス、銀行、携帯電話会社、航空会社などありとあらゆる店舗があります。



SmallVille Complex

スモールビルにはローカルフードや韓国料理に中華料理、ピザやパスタなどのコンチネンタルフードなどの飲食店やバーやカフェ、クラブ、マッサージ、ビリヤード、カラオケなどの商業施設が立ち並び、観光客や若者、学生などに人気のエリアです。

夜になるとDJやバンド演奏などで賑わうイロイロ唯一のナイトスポット。



Plazuela de Iloilo

SMシティサウスポイントに位置するプラズエラ・デ・イロイロは、南欧風の外観やライティングなどが素敵なレストランモール。お洒落なレストランで食事したり、スイーツを楽しんだり、「スターバックス」や「Coffee Break」で美味しいコーヒーを味わえます。2010年のオープン以来、店舗は増え続けています。



その他の名店

マッサージ・スパ・ネイルサロン

イロイロにはマッサージやサウナ、フィッシュスパ、ネイルサロンなどのスパ施設がたくさんあります（SMシティ、ロビンソンモール等の商業施設内に多く見られます）。
全身マッサージは1時間200ペソ程度からと、日本と比べると驚くような金額で疲れた体を癒し、心をリラックスさせてくれます。

Nuat Thai



Tibiao Fish Spa



Anea Nail Spa



Spa Riviera



お菓子・スイーツ

イロイロにはビスコチョコ、バエバエ、バタースコッチなど、有名なお菓子があります。「Deocampo」「BiscochoHaus」などはイロイロの有名洋菓子ブランドです。

またケーキ、パン、アイスなど甘いものが食べられるカフェや洋菓子屋等が街に点在しています。

- ・「Earlo's Bakery Caf」-MKイロイロ近くの食事も楽しめるベーカリーカフェ。
- ・「Dulgies」-オシャレカフェブルーベリーチーズケーキがおススメ。
- ・「Maridel's」Plazuela内のおいしいケーキ屋 チョコアイスケーキがおススメです。



イロイロの料理・名産

パンシット・モロ (Pancit Molo)



パンシットとは麺のことで、フィリピンではどこでも食べられるメニュー。たまご麺のようなものやビーフンを使っていたり、さらに汁あり・なしで様々なタイプがあります。

こちらのパンシットモロは小麦粉の皮で肉を包んだもの、すなわちワンタンスープです。

バッチョイ (Batchoy)

イロイロのラパス地区の名物麺料理。豚の内臓などをニンニクスープで煮た、味わいのあるのいわゆるスープのラーメンです。

「TED'S」や「Deco's」というチェーン店やローカルレストランで食べることができ、カップ麺でもバッチョイ味があります。



マンゴー (Mango)

フィリピンといえば何とんでもマンゴー。

イロイロの隣のギマラス島はマンゴーの産地として世界的に有名な島です。ここで生産されたマンゴーは輸出用として海外(特にアメリカ)に向けて送られます。

ギマラス島では管理が行き届いているので害虫がほとんど確認出来ないため、輸入する国としては信頼のおける安全なマンゴーとなりますが、残念ながら日本には輸出されていないため、食べたければ行くしかありません。

ちなみに現地では1キロ約200~300円という驚きの値段で売られています。

※なお、ギマラス島には「ナショナルマンゴーリサーチ&デベロップメントセンター」という研究施設まであります。



レストラン

Breakthrough

ヴィラビーチ沿いにある安くて美味しいシーフードレストランです。ロブスター、カニ、牡蠣(TALABA)、エビ、貝、魚などの新鮮な海産物に加え、レチョンという豚の丸焼きなども食べられます。



Mango Tree

ローカルフードやメインにステーキが食べられるレストランです。綺麗なお庭でも食事することができ、庭の真ん中には店名の由来となるマンゴーの木があります。夜にはライトアップされ、とても雰囲気の良いレストランです。



Mang Inasal

イロイロに本社があるチキンバーベキュー専門の人気チェーン店です。竹串に刺さったグリルチキンとバナナの葉に包まれたおかわり自由のご飯と柑橘系のカラマンシー！べとつきも気にせずかぶりついて下さい。



Buto't Balat

SMシティの近くにある、低価格でフィリピン料理を満喫できるお店です。メニューの品数も多く、アルコールはもちろんシェイクなども注文できます。お店の雰囲気もよく、スタッフの接客態度もとてもフレンドリー！





※店舗情報をはじめ、メニューや料金などは随時変更の可能性あり

Perri Tood's

Perri Tood's - 4つ分以上はあるビッグバーガーとタワーサーバーのアイ스티ーで有名なお店です。味もGOOD！



Tapi 2 Ted

Smallville内にあるお店。32インチ=約80cmもある巨大なピザが有名で、バリエーションも10数種類に渡ります。また、ピザ以外のメニューも豊富。みんなでパーティーを楽しむには最適です。



Floyd's

Plazuela de Iloilo内にあるファストフードレストラン。バーガーや丼ものまであるので、両方を手軽に食べたくなった場合ぜひおすすめしたいお店です。



Coffee Break

スターバックスと並んで現地では有名なコーヒー店。Plazuela de Iloiloやイロイロ空港をはじめ、各地に展開しています。キャラメルマキアートフラッペはオススメ！



※店舗情報をはじめ、メニューや料金などは随時変更の可能性あり

イロイロの日本料理

異国での料理に飽きてしまい、日本のご飯が恋しくなる時は誰も必ずあります。お寿司、そば、天ぷら、カツ丼、お好み焼き、ラーメン、etc イロイロには日本料理が食べることが出来るレストランが何軒かあるので、いくつか紹介します。



Suehiro Japanese Restaurant

イロイロで最初に出来た日本料理レストランです。Sarabia Manor Hotel内にあります。刺身、寿司、天ぷら、すき焼き、鉄板焼き、焼き鳥、親子丼など様々日本食を味わえます。火・木曜はランチビュッフェ、水・金曜はディナービュッフェがあります。

Hamada Authentic Japanese Restaurant

Plazuela de Lloiloに出店している日本食レストランです。寿司、丼物、ラーメンなど何種類もメニューにあります。従業員の1人は10年間日本で生活していたそうで、日本語での接客もお上手です。野菜の天ぷら45ペソ、チラシ寿司250ペソ。営業時間11am to 3pm 6pm to 10pm.



Mr. Misono

IZNART通りとGEN LUNA通りの交わるところにある、日本食のファストフードレストランです。店内の雰囲気やメニューの表示もファストフード店のようです。骨なしチキンに甘酸っぱいTERIYAKIソースを絡めてあるChicken WakadoriやおなじみSUKIYAKIが人気です。

Maki Japanese Restaurant

SmallVilleの入り口にあります。こちらはBento-Bento buffetと呼ばれる弁当でサーブされるのが特徴で、寿司や刺身、麺、スープ、天ぷら、肉、魚が弁当箱に詰められています。また、California Maki, FutoMaki, Crazy Maki, New York Maki, Spicy Tuna Makiなどの変り種もあります。



※店舗情報をはじめ、メニューや料金などは随時変更の可能性あり



Namie Japanese Resto

フィリピン大学近くデルガード通りにある、日本料理レストランです。アラスカ、ノルウェーから輸入した新鮮なサーモンのお刺身など食べることが出来ます。天つゆやテリヤキソースなどは日本の調味料から作られた本格派で、麦や黒糖など日本の本格焼酎が揃っている時もあります。

Ohana Japanese Restaurant

イロイロリバーサイドHotel Del Rioのプールサイドにある日本料理レストラン。マグロの刺身、ギョウザ (Japanese Dumpling), Japanese Cheese Sticks, Beef Teppanyakiなどを食べることが出来ます。

営業時間 10AM to 2PM / 5PM to 10PM



The Promenade Restaurant

Days Hotel Iloilo内にあるレストランで“MESHI”と呼ばれる日本食のビュッフェディナーがあります。寿司、すき焼き、天ぷらなどはもちろんのこと、鳥の南蛮漬け、茄子の蒸し物、じゃがいもサラダ、餃子など、見た目も美しく大皿にサーブされています。天ぷらコーナーは人気で常に行列。デザートも人気です。

RAI RAI KEN

SMシティ2階にある、フィリピンに十数店舗構えるフランチャイズの日本食レストランです。ラーメンを中心に寿司、丼もの、天ぷらなどがあります。ラーメンは塩、味噌、五目、坦々麺など馴染みのあるものから、バッチョイ、焼肉、フカヒレ、ガーリックチリなど変り種のラーメンが食べられます。ラーメン140ペソ～



Kollabo Kitchen 【オススメ】

ベニグノ・アキノ・アベニューからドナート・ピソン・アベニューに入って間もなくの東洋風の佇まいのお店。日本料理メインで、中国・韓国料理も味わえます。生鮮食料品以外は日本人オーナーが日本から取り寄せており、味は折り紙付き。名物のしゃぶしゃぶ、カツ丼、お好焼き目当のお客さんで店内もテラスもいつも満席です。

※店舗情報をはじめ、メニューや料金などは随時変更の可能性あり

イロイロ観光

Museo Iloilo (Iloilo Museum)

イロイロの文化遺産が展示されている博物館です。規模は小さいですが、“過去への窓 (Window of the past)”という異名があるほど、収蔵・展示内容は多岐に渡り充実しています。スペイン植民地時代の文化や芸術はもちろん、パナイ島の歴史を示す化石や石器、アジア各国との貿易品、戦時中の遺留品などがあります。多数のイエス像や地元芸術家の作品も必見です。



Lizares Mansion

リサールマンションはイロイロ・ハロ地区にある代表的な建物です。イロイロで砂糖産業が全盛期の時にLizares-Gamboa家の邸宅として使用されていました。現在は、名門私立学校のAngelicum Schoolとして使用されていて、クリスマスの時期には何千ものライトで装飾された綺麗な光景を鑑賞するために市民が集います。



Iloilo Golf & Country Club

空港近くのサンタ・バーバラという地区にある、1907年開業のフィリピンで最も歴史のあるゴルフ場です。18ホール、パー70、6,061ヤード。マホガニーの老木に囲まれた起伏あるフェアウェイ。ゴルフ好きがハマる名コースといわれています。基本はメンバー制ですがビジターも利用可能です。※なお、イロイロにはゴルフ練習場も2つあります。



イロイロの携帯事情

フィリピンの主要携帯電話キャリアは3社あり、シェアNO.1は「Smart」というキャリアです。特にイロイロ市およびパナイ島では80%以上のシェアを誇るため、現地でプリペイドSIMを購入する際はSmartがオススメです。



リゾート

世界一のリゾートアイランドにも選ばれる地上最後の楽園

BORACAY

ボラカイ島はイロイロのあるパナイ島の北に位置するシブヤン海に浮かぶ離島です。長さは約7Km、幅の狭いところでは約1Kmしかない小さな島ですが、周囲はサンゴ礁に囲まれ、エメラルドグリーン^①の海が広がります。1990年、BMWのトロピカル・ビーチ・ハンドブックの投票で「世界最高のビーチ」になり、2012年には、アメリカの旅行雑誌『トラベル+レジャー』に



よって「世界最高の島」と評価された、名実共に世界最高峰のリゾートアイランド。リゾートの拠点である西海岸には「ホワイトサンドビーチ」と呼ばれる粉雪のように真っ白でサラサラの見事なビーチが約4kmにも渡って延びています。真昼の太陽の下で青い空、エメラルドグリーン^①の海、白い砂浜の鮮やかなコントラストが織りなす風景は、あまりにも絵はがきの的で現実味に乏しい気さえするほどです。

また、夕方に白い砂浜がオレンジ、時には真っ赤に染まる「ボラカイサンセット」はあまりにも有名です。透き通る美しい海でシュノーケルや



ダイビングを楽しみ、疲れたらヤシの木陰で眠るのも良い気分。お腹が空いたらレストランで現地のチキンや魚を食べ、喉が渴いたらココナッツやマンゴーなどのフレッシュジュースを飲む。夜はビーチ沿いのバーで星空を眺めながらお酒を嗜む。ここボラカイにはリゾート地の全ての要素が詰まっています。

マンゴーと白砂に身も心も癒される・・・

GUIMARAS

イロイロ市の対岸に位置し“Enchanted Rock”として知られているギマラス島は、南北に約40キロメートル東西に約20キロメートルの大きさの島で、Jordan, Buenavista, SanLorenzo, Sivunag, NuevaValenciaの5つの自治区から成り立っています。

ギマラスは世界的なマンゴーの産地として非常に有名で、5万本にも及ぶ世界一甘いマンゴーの木があります。毎年4月の第3週にはマンゴーフェスティバルが開催され、その時期に収穫されるマンゴーは大きくよく熟れており、口いっぱい甘さが広がります。

イロイロからはフェリーで20分程度の距離に位置しており、白い砂浜とコバルトブルーの海ではシュノーケリングやスキューバダイビングはもちろんのこと、アイランドホッピング、バーベキューなども楽しむことができます。イロイロ市民にとって最も身近な週末の娯楽リゾートがギマラス島なのです。



イロイロへの行き方



日本（東京）からイロイロまでは、直線距離にして約3,300 kmあります。

日本からの直行便はなく、フィリピンの首都マニラやセブ、または他のアジア都市を経由することになります。

日本からマニラへは、新東京国際（成田）空港、関西国際空港、中部国際空港、福岡国際空港、東京国際（羽田）空港から直行便が運航されており、**3時間半～4時間程度**で到着します。マニラからイロイロまでは様々な航空会社の国内線が運行しており、**1時間程度**で到着します。

■フィリピン航空



アジアでは最も長い歴史を持つ航空会社であり、フィリピンでも代表的な航空会社です。上記の国内5空港全てに乗り入れています。マニラ ニノイ・アキノ国際空港(以下「NAIA」)にはターミナルが4つあり、そのうちのターミナル2(T2)はフィリピン航空専用です。

■ジェットスター航空



今話題のLCC（格安航空会社）です。ウェブサイトからご自身でチケットを購入できます。成田、関西に乗り入れています。マニラへの直行便は関西からのみとなります。マニラまでであれば恐らく最も安価で提供している航空会社です。

■セブパシフィック航空



LCC（格安航空会社）でありながら、フィリピン航空を抜いてフィリピン最大の航空会社となりました。チケットはウェブサイトからの購入となります。成田、関西、中部に乗り入れており、NAIAではターミナル3（T3）のみの利用となります。

他にも「日本航空（成田）」「全日空（成田・羽田・中部・関西）」「デルタ航空（成田）」等がマニラとの直行運航しています。

※運航状況については随時変更となる場合があります。



※また、他のアジア都市を経由してマニラへ行くことも出来ます。

- ・「エアチャイナ」「中国東方航空」「中国南方航空」を利用した北京・上海經由
 - ・「チャイナエアライン」「エバー航空」を利用した台北經由
 - ・「大韓航空」「アジアナ航空」を利用したソウル（仁川）經由
 - ・「キャセイパシフィック航空」を利用した香港經由
- などがあります。

マニラ空港について

正式名はニノイ・アキノ国際空港（略称：NAIA）。1～4のターミナルがあります。市内の中心部から南へ約10kmのパサイとパラケーニャの間に位置しています。かつては「マニラ国際空港」と呼ばれていましたが、ここで1983年に暗殺されたベニグノ・アキノ・ジュニア氏の愛称を冠した名称へ改称された、「フィリピンの空の玄関口」です。

ターミナル1：

様々な国際線の航空会社が乗り入れており、一番混み合っているターミナルです。「ジェットスター航空」「日本航空」などが乗り入れています。

ターミナル2：

「フィリピン航空」専用のターミナルです。国際線、国内線共に乗り入れています。

ターミナル3：

新しく完成したターミナルで、「セブパシフィック航空」「全日空」「デルタ航空」などが乗り入れています。

ターミナル4：

旧国内線ターミナルで、現在は一部のフィリピン系LCCの国際線、国内線が発着しています。



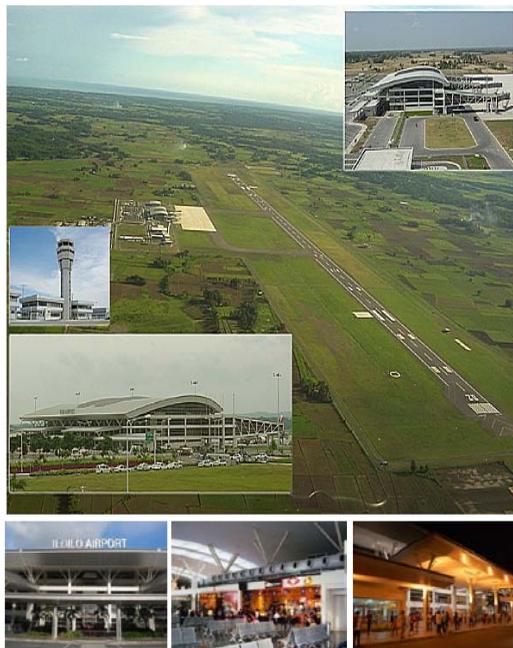
イロイロ空港について

2007年3月に完成した2,500mの滑走路、延床面積13,700m²のターミナルなどを有する国際空港。フィリピン国内各地の他、香港とシンガポールへの便があり、フィリピンで4番目に旅客数（約132万人＝2009年）の多い空港です。

以前はイロイロ市内にありましたが、旧空港を拡張することが困難なため、需要増に対応できないことから、イロイロ市の北西約20キロのカバトゥアンとサンタ・バーバラ地区に移設されました。建設は日本の政府開発援助（ODA）によるものであり、日本とフィリピンの国旗が空港前面に掲げられています。

※なお、旧空港の跡地にはAPEC2015のための施設、更にはホテル・ビジネスパーク・マンション等の建設が進んでいます。

また、ショッピングモール「SMシティ」がすぐ近くにあり、イロイロ市のニュータウンエリアとして発展を続けています。



マニラ ニノイ・アキノ国際空港 (NAIA) でのターミナル移動

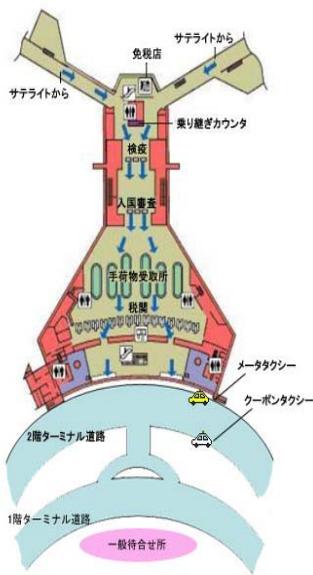
NAIAには1~4のターミナルがあり、ターミナル間を移動するにはタクシーが基本となります。(フィリピン航空・セブパシフィック航空のみ利用して日本からイロイロへ入る場合は、国際線・国内線共に同じターミナル)

ジェットスター航空や日本航空、その他国際線の多くは、マニラ空港のターミナル1 (T1)に到着します。その後、国内線でイロイロへ向かう場合、T1からT2(フィリピン航空)、T3(セブパシフィック航空)またはT4(タイガーエア・フィリピン)へ移動しなければなりません。

ターミナル移動には、AIRPORT TAXI(定額クーポンタクシー、メーターイエロータクシー)での移動をお勧めします。

到着ロビーを出ると左手にタクシー乗り場があります。「タクシー！タクシー！」と声を掛けてくる人がいると思いますがスルーして下さい。
 ※なお、シャトルバスも出ていますが、満席になるまで出発しないことがほとんどであり、出発時刻は正確ではないため、よほど乗り換え時間に余裕がある時以外は利用しないことをお勧めします。

タクシー乗り場には受付カウンターがあり、行き先のターミナルと名前を係員に伝えると、番号の記載されたチケットを2枚渡されます。1枚をドライバーに渡し、行き先を告げて下さい。時間帯によっては渋滞することもあるのでご注意ください。
 料金はおよそ150~300ペソ、所要時間15~40分程度となる予定です。
 予め少額の紙幣を用意しておきましょう。



【T1詳細図】



【タクシー受付表示板】



■ ホテル

Injap Tower Hotel

West Diversion Road, Mandurriao, Iloilo City / 388-4538

Amigo Terrace Hotel

Amigo Plaza Mall, Iznart St., City Proper, Iloilo City / 335-0908

The Centennial Resort Hotel

Phase IV, Marikudo Street, Alta Tierra Village, Jaro, Iloilo City / 320-2277

Jaro Bellevue Pensionne

Carter West Centre, Lopez Jaena St., Jaro, Iloilo City / 320-9521 to 23

Iloilo Business Hotel

Benigno Aquino Jr. Ave., Mandurriao, Iloilo City / 320-7972 to 74

MO2 Westown Hotel

Benigno Aquino Jr. Ave., Mandurriao, Iloilo City / 509-0202

The Grand Dame Hotel

Cor. Rizal - Huervana Sts., La Paz, Iloilo City / 320-5252

Iloilo Midtown Hotel

888 Yulo St., Iloilo City, 888, Yulo St., Iloilo City / 336-6888

El Haciennero Private Hotel

1177, Jaime St., Jaro, Iloilo City / 320-9460

Harbor Town Hotel

Cor. Aldeguer - J.M. Basa Sts., Iloilo City / 337-2384

The Residence Hotel

44 General Luna St., Iloilo City / 338-1091 to 93

■ 病院

Iloilo Doctors Hospital Incorporated

West Avenue, Molo, Iloilo City 337 7702 to 09

Iloilo Mission Hospital

Mission Road, Jaro, Iloilo City 320 0315 to 19

St. Paul's Hospital

Gen. Luna St., Iloilo City 337 2741 to 49 Local 2083 or 6317

■ 空港

Air Philippines

Office in Iloilo City: General Luna St., City Proper
(Near Tijuana Restaurant and Bar)
Contact No.: (+63)(33)3208048 / (+63)(33)3208049 /
(+63)(33)5085513

Cebu Pacific

Office in Iloilo City: SM City Iloilo, Diversion Road,
Mandurriao District
Contact No.: (+63)(33)3208017 / (+63)(33)3206889 /
(+63)(33)3206582 / (+63)(33)3294660

Days Hotel

4th Floor, The Atrium, Gen. Luna St., Iloilo City / 337-3297

Casa La Granja

195 Lopez Jaena Street, La Paz, Iloilo City / 320-3473

Sarabia Manor Hotel

101, Gen. Luna St., Iloilo City / 335-1021 to 32

Century 21 Hotel

Quezon St., Quezon St., Iloilo City / 335-8821 to 23

Eon Centennial Plaza Hotel

Jalandoni St., Iloilo City / 337-2277

Highway 21 Hotel

Gen. Luna St., Iloilo City / 335-1840

Hotel Centercon

J.M. Basa St., Iloilo City / 337-3431 to 33

Hotel Del Rio

M. H. Del Pilar St., Molo, Iloilo City / 337-1171

Iloilo Grand Hotel

Iznart St., Iloilo City / 335-1801 to 04

La Fiesta Hotel

M. H. Del Pilar St., Molo, Iloilo City / 338-0044

People's Hotel

Fuentes cor., Delgado St., Iloilo City / 336-1070

Chito's Hotel

De Leon St., Iloilo City / 338-1186

■ 観光案内

The Department of Tourism (DOT)

Bonifacio Drive, City Proper, Iloilo City
Landline: (033)3375411
Telefax: (033)3350245

Related Contact numbers:

Iloilo City Tourism Office: (033)337-2172/336-7572
DOT Information Center: (632)524-1703 (Manila)

Philippine Airlines

Office in Iloilo City: Diversion Road, Mandurriao
District (Beside SM City)
Contact No.: (+63)(33)3203030 / (+63)(33)3203131 /
(+63)(33)3207151

Zest Air

Office in Iloilo City: Martmart Mall and the New Iloilo
Airport
Contact No.: Mobile: (+63)9178911049 /
(+63)9173051038

- フィリピン最大級の規模（300名）
- 多数の優秀な講師陣
- 特徴あるカリキュラム

を持つイロイロ市の名門語学学校

MK EDUCATION

International Language School

皆様のご留学を心より
お待ちしております！



MK EDUCATION
International Language School